

おおふな

2025年8月22日 No.4

発行者：森田隼士 編集：情宣部

JR東労組 大船支部

大船支部第29回定期大会開催！！④

主催者挨拶（要旨） 執行委員長 小林 洋一

2025年春のたたかいでは、①JR総連春闘、②過半数代表者選、③JR武蔵小金井駅暴行事件総対話の運動をつくり出してきました。地本春闘集会では、要請数を超える組合員の参加を勝ち取り、春闘メッセージ行動、JR武蔵小金井暴行事件で知らない組合員をつくらないたたかいを100%貫徹したことは大きな成果です。しかし会社は、ベアは所定昇給額の1.5倍+4000円、エルダー基本賃金8000円加算、夏季手当は基準内賃金の2.8ヶ月と昨年よりわずか0.1ヶ月+と回答しました。

大船支部の組織力は、着実に強化されてきています。要求獲得に向けて、あとは拡大にどうつなげていくかです。地本大会では「組合員だけの東労組でいいのか」と提起がありました。私自身も異動となり、異動先の組合員の方に歓迎会を開催して頂き、仲間の温かさを感じつつ、一方では現役組合員が少ない状況に不安や悲壮感を感じ自分の中で壁をつくってしまい、殻に閉じこもる感覚もありました。そんな中、「組合員だけの東労組でいいのか」という言葉を聞いて、同じ労働者の仲間なんだという気持ちに頭を切り替えることができ、仕事に集中し徐々に覚えてきて周りの信頼関係も少しずつですができつつあります。会社は、委員長の私を異動させて大船支部の組織破壊を図ってきました。会社の狙いを打ち破り会社を後悔させる為にもみんなで組織拡大を実現させていきましょう。

2つ目に今の会社の経営姿勢についてです。今の会社の経営姿勢はどうでしょうか？「稼ぐ第一」になっていないでしょうか？異動先の職場で若手社員に「この仕事を極めるには何年かかるか？」聞いたところ「10年～20年の世界ですよ」と返ってきました。管理者に同じ質問をしたところ「3年でマスターできます」と言い、「実作業の経験は無いが、他職場で組持ち主任を経験してきたのでわかります。3年でできます。それをやろうとしないだけです。やれと口を出してやらせれば良いだけです」と言っていました。今の会社の経営姿勢を如実に表しているなど感じました。私たちの命、安全を守るのに組織拡大は待った無しです。

3つ目です。7月に2件のえん罪事件が無罪になりました。2件のえん罪事件は、武蔵小金井駅暴力事件のAさんやえん罪浦和電車区事件と内容が重なる部分があります。権力側にとって都合の良いストーリーに書き換えられて弱い立場の人間を追い詰められています。私も今回の不当転勤で本当に仲間の支えがあって心を病むこと無く元気に生きています。だからこそ、Aさんを始め今困っている仲間の手を差し伸べ共にたたかう必要があると感じています。

最後に、ロシアウクライナの紛争も泥沼化しイスラエルとハマス紛争もアメリカが入り停戦交渉するも目処がつかず毎日のように犠牲者が多く出ています。参議院選挙では、東労組議員懇談会等メンバーである牧山ひろえさんが当選しました。安心して暮らせる社会の実現、安心して働ける会社を創っていくために何としても組織拡大を実現させていきましょう。



総括答弁（要旨） 書記長 森田 隼士

みなさんに考えて頂きたいのは、「組合員だけの東労組でいいのか」ということです。どこの職場も要員不足が慢性化し、組合員のみならず多くの働く仲間が疲弊している状態だと思います。「勇翔2034」をご覧になって、みなさんはどう感じたでしょうか。私が非常に危機感を頂いたのは「安全」のことが殆ど触れられていないことです。「勇翔2034」では安全に変わり「信頼」と「当たり前を超えていく」ことがキーワードとなり、そして4兆円・5兆円規模の利益を生み出す会社になることが掲げられています。ひとたび不祥事や重大な事故が起きれば信頼を失うと記載されていますが、既に多くの不祥事や事象が相次ぎ、今でさえもお客さまや株主、地域のみなさまからの信頼があるとは、私は到底思えません。

この状況を変えていくにはどうしたらいいのか、その場合に、「組合員だけの東労組」でいいのかということをご考えて頂きたいのです。はっきり申し上げて、組織拡大が進まなければ、どれだけたたかいを構築したとしてもやはり限界があります。端的に言えば悔しいけれど、社友会に勝てません。真つ当なことを訴えようと、会社は社友会を使い、社友会を盾にして私たちの声に耳を傾けません。

JR武蔵小金井駅暴行事件でも明らかになったように、横暴な会社姿勢を前に犠牲になっているのは組合員だけではありません。JR東労組は、共に働く労働者の為の労働組合です。あらゆる問題が発生したときに、仲間の為にできることをやる、おかしなことにはおかしいと声をあげる、誤解を恐れずに言えば、そのこと自体は、相手が労働組合に加入しているかどうかは関係ありません。しかし、現実には労働組合に加入しているかそうでないかでは、天と地ほどの差があります。その象徴が労働協約です。協約は組合員にしか適用されません。Aさんはある日突然、些細な出来事が原因で、ハラスメントを受け不当な懲戒処分を受けました。Aさんは今日この場にいるみなさんと同じ駅で働いていました。決してAさんが特殊な環境で働いていたわけではありません。誰もがいつ、Aさんと同じような事態になってもおかしくないのです。そうなれば未加入者、社友会の会員こそ非常に不安定な立場にいることは明白です。Aさんは自分と同じような人を作りたいくないと語ってくれています。同じ立場のような人を作らない為には、未加入者や社友会員に、共にたたかう仲間の存在や、労働協約等の組合の重要性を訴え、加入を促し、または迫っていくことが重要だと思います。

自分たちさえ良ければ良いとか、そういう考えの下での労働組合運動は必ず破綻します。仲間が増えないからです。仲間が増えない以上、労働組合は存続できません。この間、役員や組合員のみなさんが、未加入者との飲み会や旅行、ラストランや歓送迎会、仕事の合間での対話など、多くを実践していただいています。十分加入に繋がる下地は出来てきています。

ぜひ「組合員だけの東労組でいいのか」、今日ですべて答えが出るとは思っていませんが、今日来たみなさん、そして職場の組合員のみなさんにもそのことをぜひ考えて頂き、全職場からの拡大めざして、たたかっけていきましょう。

